

□議員名：高松秀樹

## 1 江汐公園の有効活用について

論点	指定管理者制度導入の際に、現在休止中の江汐湖のボートを復活する予定はあるのか。
回答	年々利用者が減少し、平成17年にボート乗り場が台風により被災したことも重なり、実質的に営業停止の状態となっている。また、貸しボートについては、民間の事業者により営業されることが適当な施設と考えており、市営としての営業は考えていない。

論点	愛犬家は市内にドッグランの設置を望んでいると聞いている。江汐公園内にドッグランの環境を整備したらいかがか。
回答	ニーズの把握から規模、立地などを調査することが必要であり、公園全体の整備計画の中で検討することが必要になると考えている。また維持管理、運営体制が特に重要な施設のようなものであるため、そのようなことも加味しながら研究したいと考えている。

## 2 学校給食センター建設について

論点	学校給食センター建設は、昨日の一般質問の回答でも2カ所と回答されているが、間違いはないか。
回答	より詳細な費用の計算を行い、市長部局と協議していきたい。現在は政策形成過程である。

論点	米飯炊飯は外部委託を継続するのか。
回答	米飯委託の継続は、主にリスク対応を最大の目的として行いたい。デメリットとすれば給食費の圧迫等が考えられる。また、メリットとして建築費やランニングコストがかからないということもある。

論点	給食センターでは、アレルギー対応をどのように行うのか。
回答	今後も多様化、複雑化しているすべてのアレルギーに対応することは困難だが、センター方式になっても専用の調理施設や必要な調理員を配置し、現在と同じレベルの対応ができるよう努めたい。

論点	配送計画に無理はないのか。
回答	コンテナ方式で食器と食缶を別々に配送する方式で策定している。その他の準備は各学校に配置する配膳員が行うことを想定しているし、スムーズな積み下ろしができるように配膳室の改修も想定しているので、十分可能だと考える。

論点	食中毒のリスクをどのように考えるのか。
回答	調理員の健康管理の意識の向上と保菌の疑いのある職員の代替の確保については調理場の集中が有効であるし、職員の接触を減らすには各調理場の調理員の人数が少なくて済む調理場が多いほうが有利であると考え。

論点	学校行事と連携した給食の提供は可能か。
回答	各学校から年間計画を上げてもらい、各学校とも調整を行いながらできるだけ学校の要望に対応した長期的な配送計画を策定したいと考えている。また、早目に連絡があれば学校行事に対応できると考えている。